

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
123122077	保育論	石原 美菜子	レ	専門	2	選択	2後期

科目の概要

「保育」の意味を理解すると共に乳幼児の発育・発達を知ることにより、ライフスタイルのデザインに不可欠な専門的知識・技能を身につけることができる授業です。(DP3)
 ★日米での30年以上の幼稚園・保育園での実務経験があり、保育者としての専門的知識や現場で培った技術を活かした教育を行います。

学修内容	到達目標
① 子どもの心身の発育・発達過程や子どもを育てることの意味を理解できる。 ② 現代社会の子育て支援について学ぶ。 ③ 乳幼児の発達をふまえて、人的環境としての保育・教育者としての役割が理解できる。	① 子どもの発育・発達を学び「子どもを育てる」とは、どのようなことなのか理解できる。 ② 子育てをめぐる社会状況や人々の考え方の変化と、その背景を理解し、必要に応じた支援の内容を調べ、問題解決することができる。 ③ 乳幼児の心身の発達をふまえて人的環境としての保育・教育者・社会の構成員としての役割が理解できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	課題や次回の授業内容の提示に対し、主旨を受け止め、進んで取り組み、さらに課題を分析するのに必要な知識についてテキストや文献を使って自己学修をすることができる。
	働きかけ力	
	実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。
考え抜く力	課題発見力	現代の子育て状況を理解し、課題を見極めることができる。
	計画力	
	創造力	物事を考える時に、固定概念に捉われることなくいろいろな方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	聞き手にわかりやすい発表の仕方（声の大きさ、スピード等）や話すポイントを整理し表現できる。
	傾聴力	他者の話を聞く中で、自分なりの意見や考えとを比較して自分の意見を述べることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	無断欠席、遅刻、居眠り、私語など講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守る事ができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：なし プリントを適宜配布します。
 参考文献：随時、授業の中で紹介します。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：「生涯学習概論」「ジェンダー論」
 資格との関連：中学校教諭一種免許（家庭） 高等学校教諭一種免許（家庭）

学修上の助言

・児童福祉法における対象年齢の子どもの発達過程を学び、子育てについての情報、思春期の子どもの情報等に常に関心を持ち、教育者、保護者としての視点で役割を考えるとよい。
 ・配布プリント、資料、PCで作成した課題は、講義ごとに整理し、まとめておくとよい。

受講生とのルール

・携帯電話や私物など、講義に必要な物はカバンの中に入れておくこと。
 ・事前に配布するプリントを読み、予習・復習をして講義に臨むこと。
 ・講義中の態度、睡眠、私語、飲食等は学ぶ意思がないとみなし、退室となった場合には、欠席扱いになります。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
			②			
			③			
	平常評価	小テスト	30	①	✓	・講義の中で学修した内容が理解できているかを評価する。 獲得：講義内容が知識となり獲得できているかを確認する。（30%） 活用：得た知識をどのように活かすことができるのかを確認する。（30%） 解決：現代の子育て事情にどのような提案ができるのかを確認する。（40%）
				②	✓	
				③	✓	
		レポート	30	①	✓	・乳幼児の心身の発育・発達を踏まえ「子どもを育てる」とはどういうことなのか、保育・教育者・社会の構成員としての役割が理解できているかを評価する。 獲得：乳幼児の心身の発育・発達を踏まえ「子どもを育てる」とはどういうことなのかを理解できている。（30%） 活用：教育の場でどのように活かすことができるのかを記述できている。（30%） 解決：現代の子育て事情にどのような提案ができるのかを記述できている。（40%）
				②	✓	
				③	✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	30	①	✓	・「行事企画」のグループ発表の際に、グループメンバーと共に目標に向けて協力する力を育成することができたかを評価する。 獲得：各自またはグループディスカッションした内容・情報を獲得できている。（30%） 活用：各自調べて得た情報とディスカッションで得た情報を活用できている。（30%） 解決：まとめた内容から各自の考えや提案が行えている。（40%）		
		②	✓			
		③	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性）課題等の主旨を捉え、進んで取組み自己学修ができたか評価する。 （実行力）決めたことは最後までやりきることができたか評価する。 （課題発見力）現代の子育て状況の理解から課題を見極められたか評価する。 （創造力）他者と活動する中で多角的に物事を考えることができたか評価する。 （発信力）相手に分かりやすい話しのポイント、方法ができているか評価する。 （傾聴力）グループ活動の際意見を述べる事ができるか評価する。 （規律性）授業が円滑に進行するようルールを守る事ができたか評価する。	
			②	✓		
			③	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
到達目標・課題について、主体的に取り組むことができ、専門知識について自身の見解を論理的な文章で論じることができる。 ① 子どもの発育・発達を学び「子どもを育てる」とは、どのようなことなのか理解し説明することができる。 ② 子育てをめぐる、社会や人々の考え方の変化とその背景を理解し、支援の内容が自己の考えで列記されている。 ③ 乳幼児の心身の発達過程を理解し、保育内容や遊びを主体的に調べ、協力して実施することができる。 総合評価：90点以上 S(秀) 89点～80点 A(優)	レポートにおいて、専門的知識について文章で論じることができる。 ① 子どもの発育・発達を学び「子どもを育てる」とは、どのようなことなのか理解することができる。 ② 子育てをめぐる、社会や人々の考え方の変化と、その背景が解り支援の内容を述べる事ができる。 ③ 乳幼児の心身の発達をふまえ、保育内容や遊びを考え協力して参加できる。 総合評価：79点～70点 B(良) 69点～60点 C(可)

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 授業の目的・進め方 (シラバス)の説明 PC活用方法について 保育と子ども	講義 ・自己紹介 ・質疑応答	保育論では何を学ぶの かを理解することができ る。 保育の意味「子ども」 の別称、用語と定義を 理解することができる。	(予習) 保育と子ども について個人的見解を 書いておく。 (復習) 保育と子ども について理解した内容 をまとめておく。(PC 活用)	180	主体性 課題発見力 規律性
2	乳幼児期の子どもの 発達	講義 ・前回の学修について 質疑応答しフィード バックする。	乳幼児期の子どもの発 達について理解するこ とができる。	(予習) 事前に配布す るプリントを読んでお く。 (復習) 乳幼児期の子 どもの発達についてま とめておく。(PC活 用)	180	主体性 課題発見力 規律性
3	特別な配慮が必要な 子どもの保育 子育て支援	講義 ・前回の学修について 質疑応答しフィード バックする。	特別な配慮が必要な子 どもの保育・子育て支 援について理解するこ とができる。	(予習) 事前に配布す るプリントを読んでお く。 (復習) 特別な配慮が 必要な子どもの保育・ 子育て支援についてま とめておく。(PC活 用)	180	主体性 課題発見力 規律性
4	年間行事・伝統文化	講義 ・前回の学修について 質疑応答しフィード バックする。 ・グループ内で幼児期 に経験した年間行事・ 伝統文化についてディ スカッションする。	年間行事・活動を知 り、伝統文化が子ども たちにとってどのよう な影響があるのか自己 の考えを述べることに できる。	(予習) 事前に配布す るプリントを読んでお く。 (復習) ディスカッ ションした内容を書き 提出する。(PC活用)	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	子どもと絵本	講義 ・前回の学修について 質疑応答しフィード バックする。 ・演習 (絵本読み聞かせ)	子どもの年齢に応じた絵 本を選び、ねらいをも って読み聞かせをするこ とができる。 子どもにとって「絵本」 がどのように影響するの かについて、考えを述べ ることができる。	(予習) 行事に関する 絵本を選び持参する。 (復習) 読み聞かせで 大切なことは何かを記 述する。(PC活用)	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	子どもとあそび 親子ふれあいやあそび	講義 ・前回の学修について質 疑応答しフィードバック する。 ・行事・伝統文化に関 するあそび・親子のふれ あいやあそびについてそ の目的を学び、実践す る。	子どもがあそびを通し て何を学んでいるのか について実践的に理解 する。	(予習) 行事・伝統文化 に関する親子で楽しむこ とができるあそびを調べ ておく。また、幼少期 には、どんなあそびを したかを書いておく。 (復習) 演習を通して 学んだことを表にして まとめておく。(PC活 用)	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	子どもと行事① (行事企画)	講義 ・前回の学修について 質疑応答しフィード バックする。 ・グループごとに行事 企画内容を考える。	子どもにとっての行事 の意味を理解し、内容 を企画することができる。	(予習) 企画案を自分 なりに考えておく。 (復習) 発表に向けて 準備する。	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	子どもと行事② (行事実演)	演習 ・行事企画実演	グループで企画した行 事内容を実演する。	(予習) 発表に向けて 準備をする。 (復習) 実演の振り返 りをまとめる。	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	少子高齢化社会①	講義 ・前回の学修について質疑応答しフィードバックする。 ・グループワーク	少子高齢化社会について、課題と背景を理解する。 グループ内で意見交換をし、多面的に考察できる。	(予習) 少子高齢化社会で懸念されている問題とは何かを考えておく。 (復習) グループでの意見交換を踏まえて、自分の意見をまとめておく。(PC活用)	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	少子高齢化社会②	講義 ・前回の学修について質疑応答しフィードバックする。 ・少子高齢化社会の背景にある課題を理解し、自分たちなりの解決案を考える。 ・グループワーク(発表)	グループワークに積極的に参加し、自分の意見を述べるができる。また、他者の意見から多面的に考察できる。	(予習) 講義内容及び配布プリントを読み返し、発表する内容をまとめておく。 (復習) 他グループ発表についての感想をまとめておく。(PC活用)	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	子ども・家庭・地域との関わり	講義 ・前回の学修について質疑応答しフィードバックする。 ・グループワーク(発表)	学校や園が保護者・家庭をはじめ地域の人々と関わることが、子どもたちにとってどのような意義をもつのかを考えることができる。	(予習) 事前に配布するプリントを読み、身近で地域の人々との交流について考えておく。 (復習) グループでの意見交換を踏まえて、自分の意見をまとめておく。(PC活用)	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	諸外国の保育 子育て・世界の動向	講義 DVD視聴 レポート提出「諸外国の保育・子育てを知り、日本の保育の特徴は何か」	世界の教育・保育・子育てを知ることで、日本の保育の特徴は何かを考えることができる。	(予習) 事前に配布するプリントを読んでおく。 (復習) 世界の教育・保育を知ることで、日本の保育の特徴は何かをまとめておく。(PC活用)	180	主体性 課題発見力
13	これからの保育 子育ての課題	講義 ・前回の学修について質疑応答しフィードバックする。 ・小テスト	これからの保育・子育ての課題について考えることができる。	(予習) 事前に配布するプリントを読んでおく。 (復習) これからの保育・子育ての課題についてまとめておく。(PC活用)	180	主体性 課題発見力 創造力 規律性
14	諸外国と日本の食文化の違い	講義 ・グループワーク(発表) ・レポート提出「諸外国の食文化を知り、日本の食文化の特徴は何か」	諸外国の食文化を知ることで、日本の食文化の特徴は何かを考えることができる。	(予習) 諸外国の食文化を調べておく。 (復習) 諸外国の食文化を知り、日本の食文化の特徴をまとめておく。(PC活用)	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	保育論まとめ 子どもを育てるとは	レポート作成 ・レポート提出「子どもを育てるとは」 ・15週間の講義内容についてフィードバックする。	講義で学んだ内容を理解し、「子どもを育てる」ための、人的環境としてのあり方が理解できる。	(予習) 講義で学んだことを踏まえてレポート作成に臨む。 (復習) 今まで学んだ内容を振り返り、資料を整理する。	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力